

平成30年度「犯罪のない安全で安心なまちづくりに係る地域防犯団体

アンケート」の結果概要版（H21－H25－H30 対照版）

調査概要

【調査地域】札幌市内

【調査対象】札幌市内で防犯活動を行っている団体の代表者

【標本数】平成21年 215団体（回収数167）（77.7%）

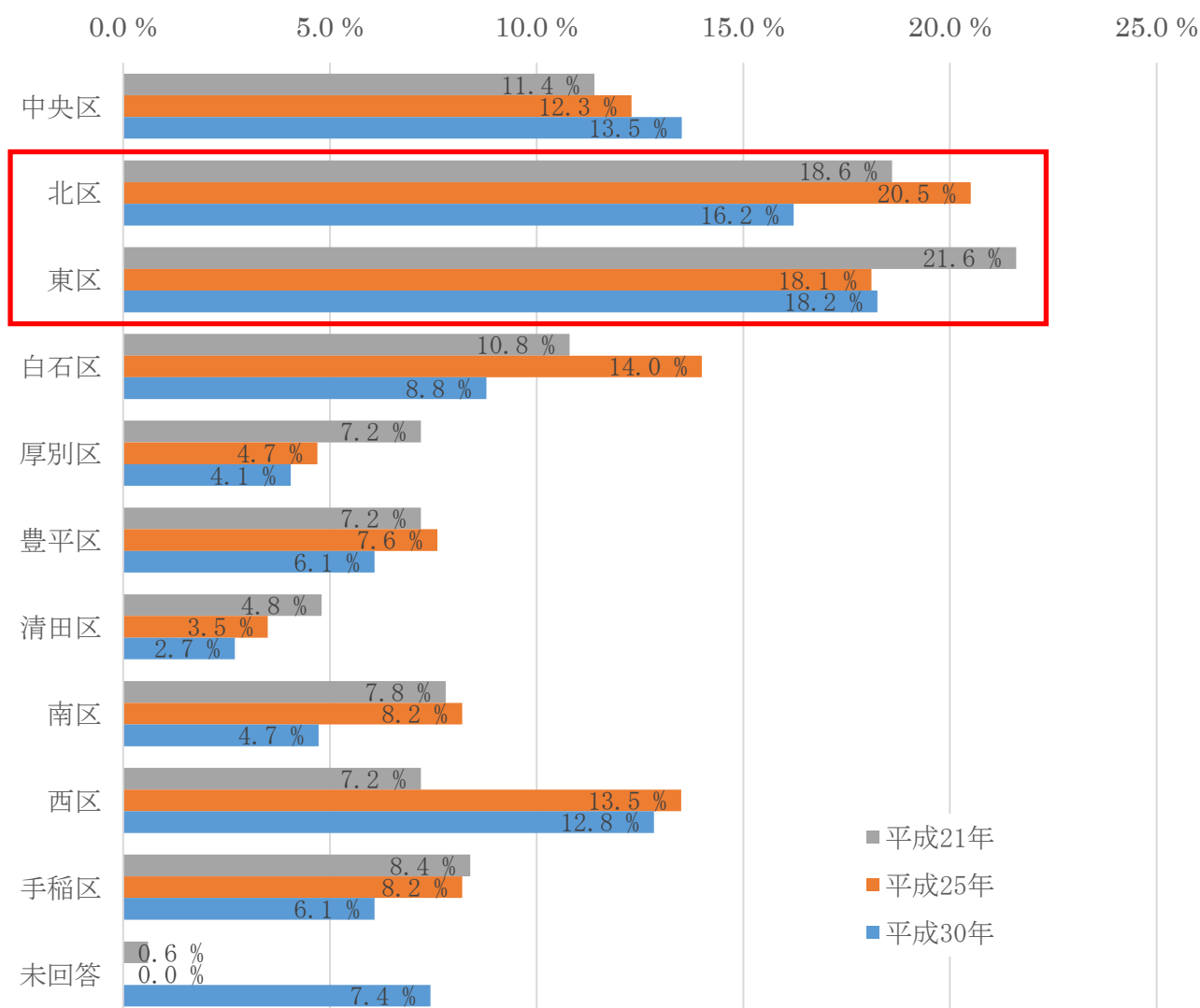
平成25年 231団体（回収数171）（74.0%）

平成30年 280団体（回収数148）（52.9%）

【調査方法】調査票を郵送し、返信用封筒で回収

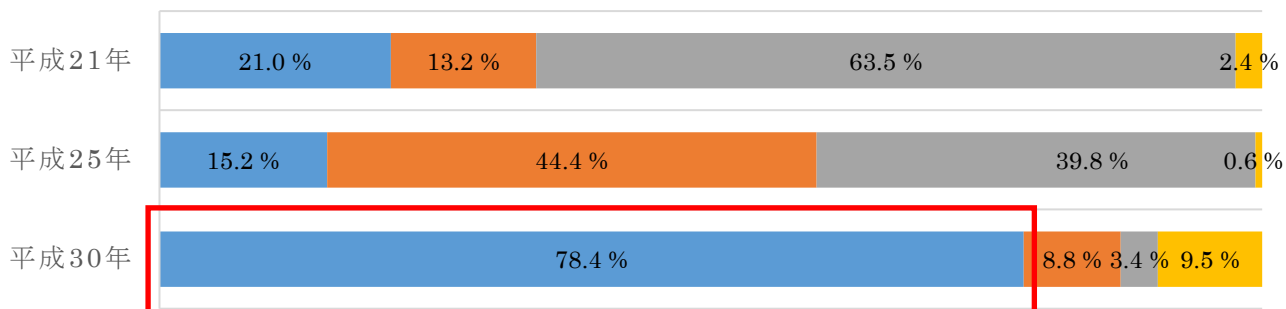
【抽出方法】北海道警察の協力により、札幌市内で防犯活動を行っている団体を抽出

1 防犯活動を行っている地区 ⇒ 東区及び北区の順に高い傾向



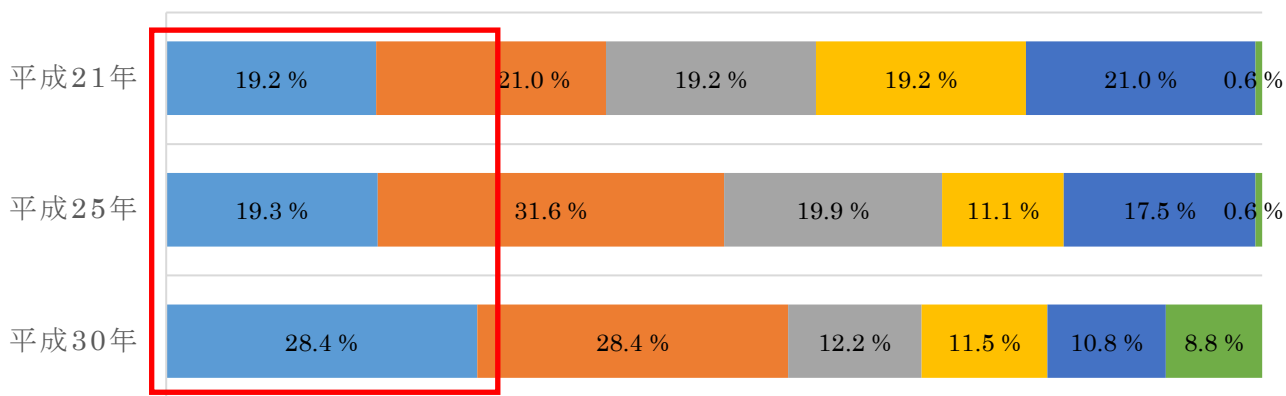
2 団体設立年 ⇒ 「設立 11 年以上」が増加

■ 11年以前設立 ■ 設立6～10年 ■ 設立5年以内 ■ 不明



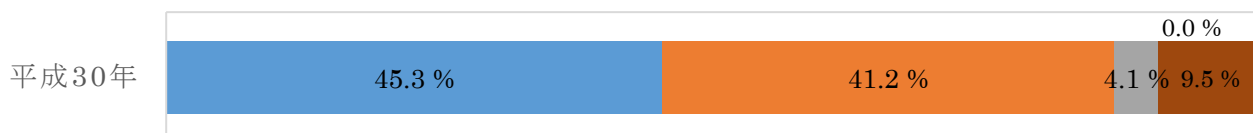
3 地域防犯活動参加人数 ⇒ 「10人以内」が増加

■ 10人以内 ■ 11人～20人 ■ 21人～30人 ■ 31人～50人 ■ 51人以上 ■ 不明



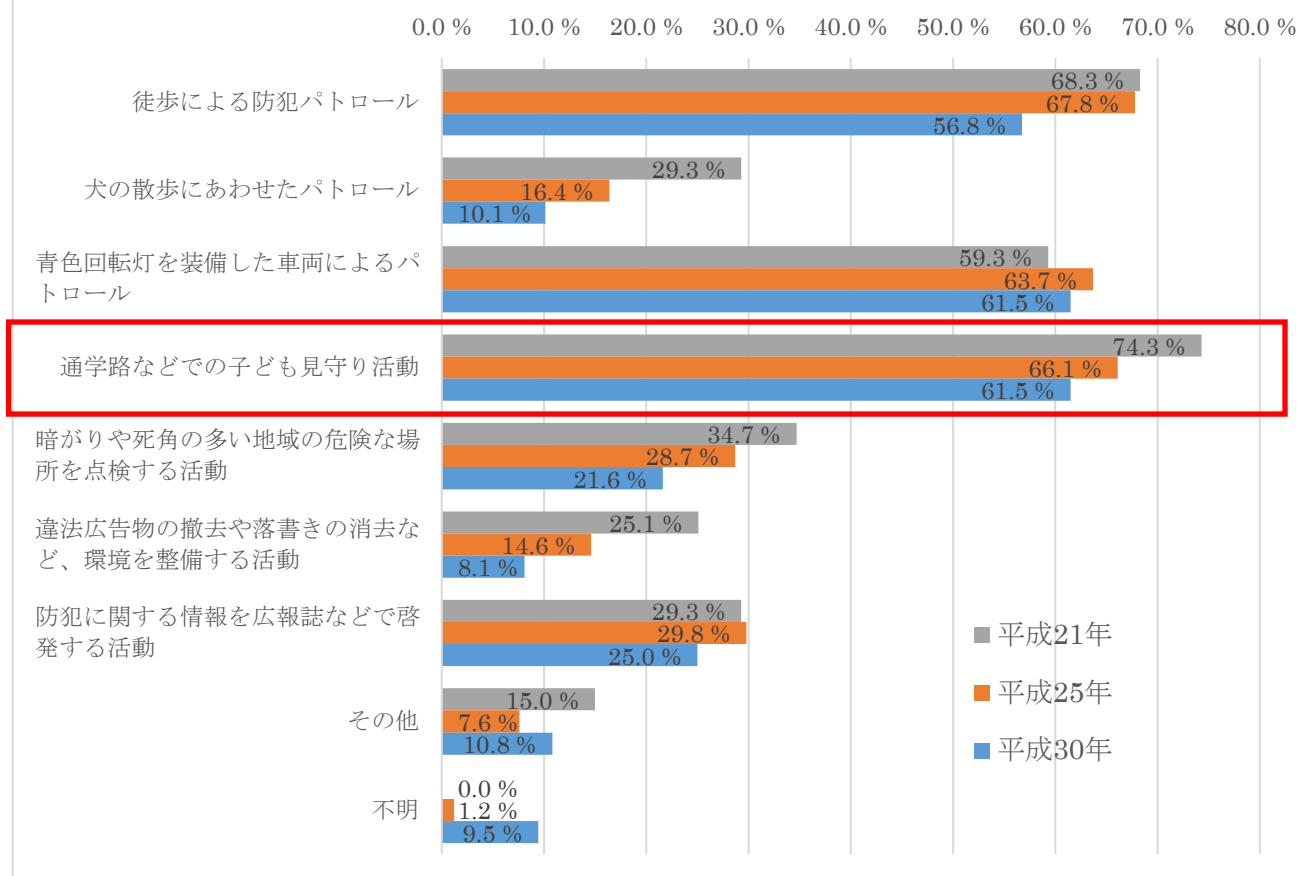
4 地域防犯活動参加者の世代 ⇒ 50歳以上の参加者が高い割合

■ 70歳代以上 ■ 50歳～60歳代 ■ 30歳～40歳代 ■ 60歳代以上



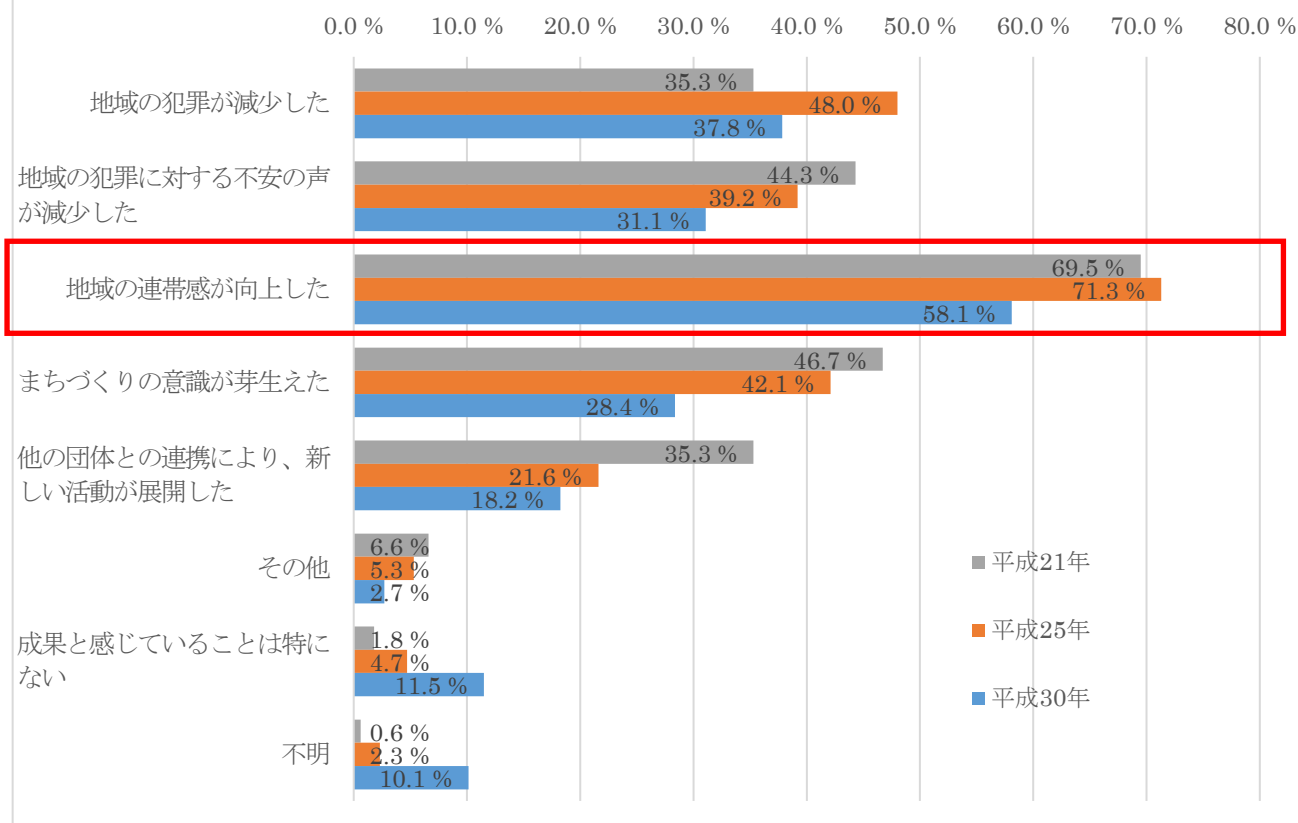
5 団体が実施している地域防犯活動の内容

⇒ 通学路などでの子ども見守り活動が最も多いものの、全般的に活動は減少傾向

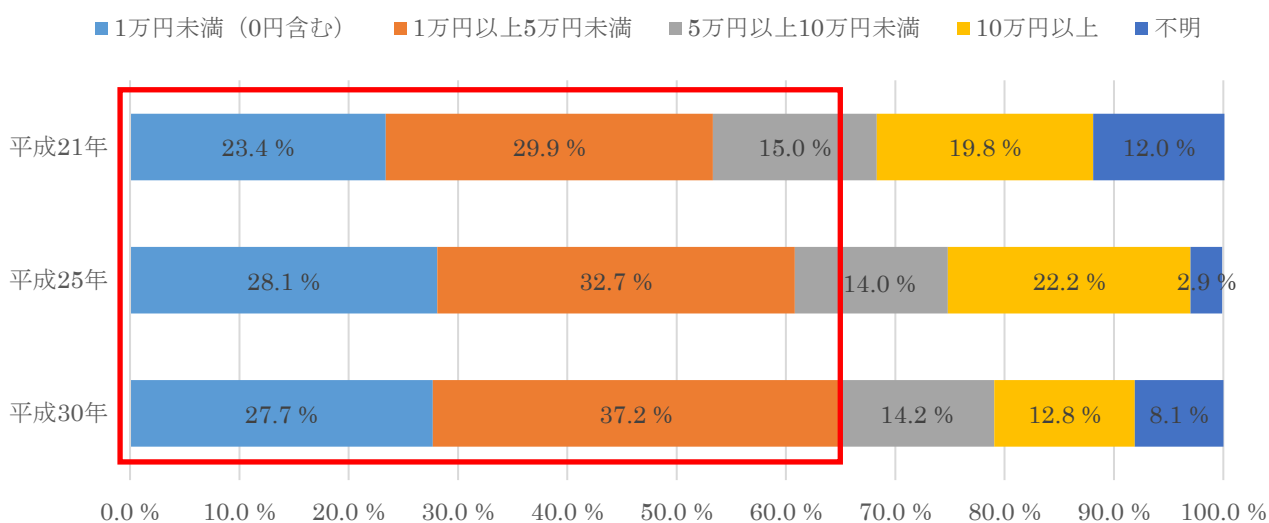


6 地域防犯活動の成果

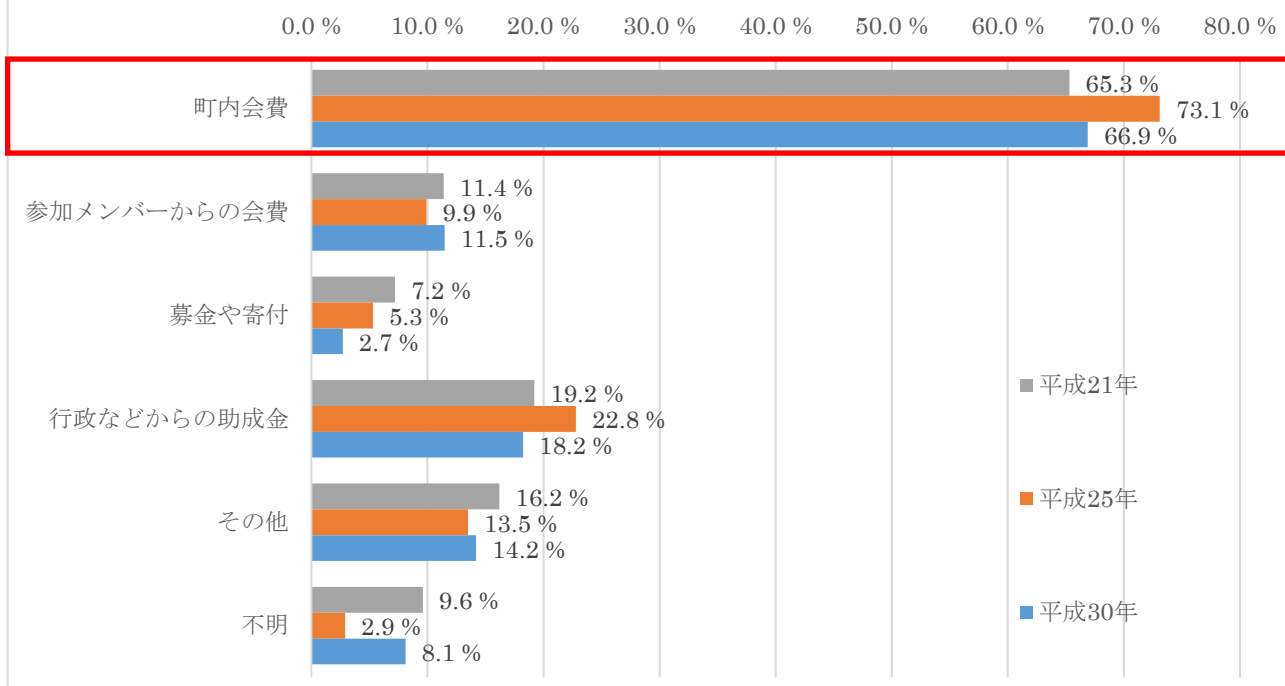
⇒ 全般的に減少傾向であるが、地域の連帯感が向上したが最も多い



7 地域防犯活動の費用 ⇒ 年々減少傾向

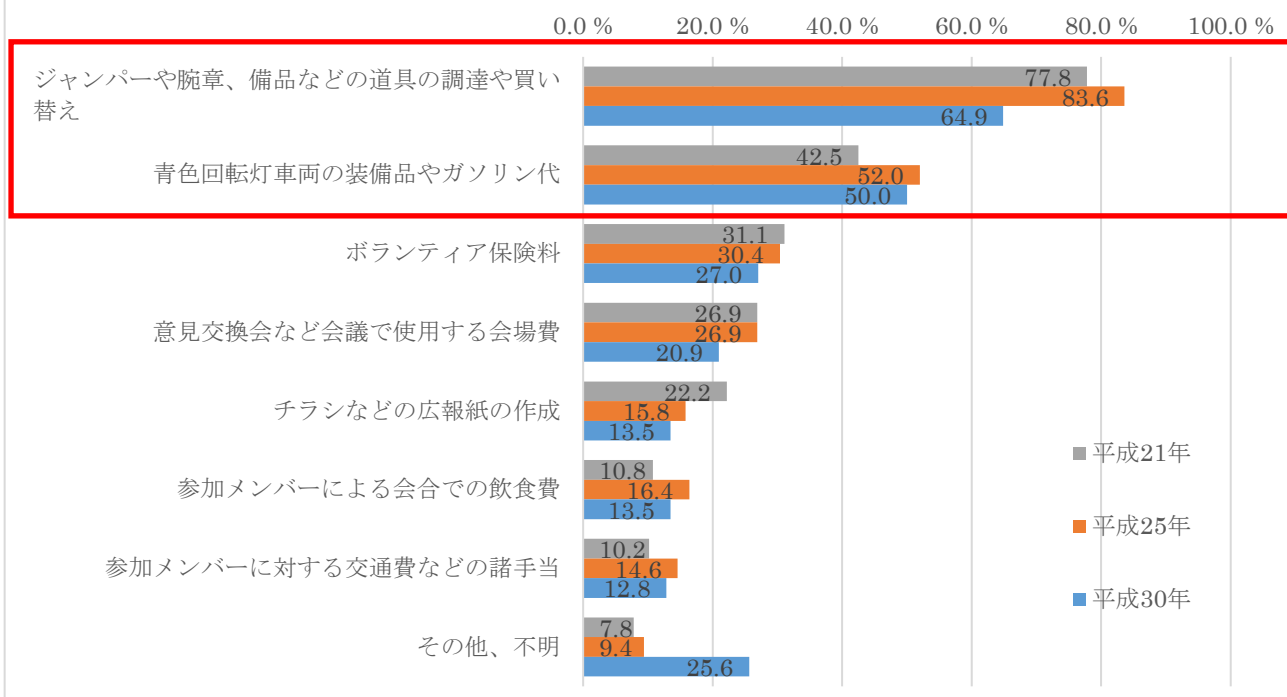


8-1 地域防犯活動費用の財源 ⇒ 町内会費が継続して高い割合



9 地域防犯活動を行うにあたりお金がかかるもの

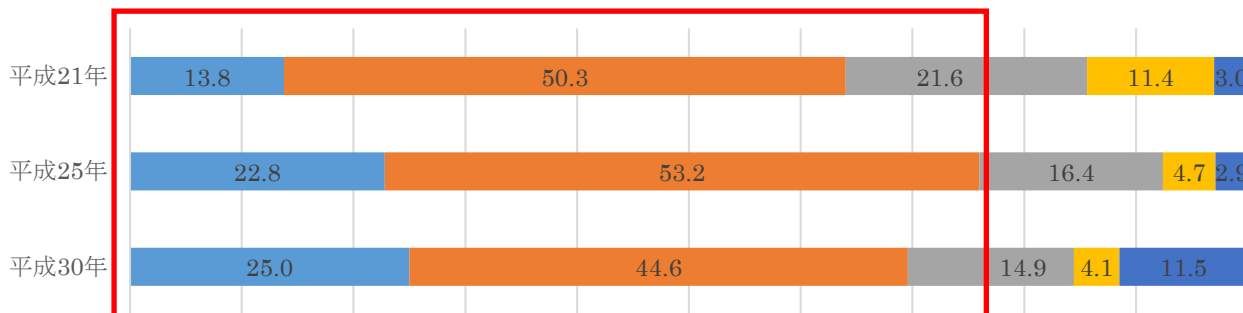
⇒ 「ジャンパー等の備品の調達や買い替え」青色回転灯車両の装備品やガソリン代」が高く推移している



10 地域防犯活動を行うにあたり必要な道具の現状

⇒ 「十分足りている」「ある程度足りている」が7割を占める

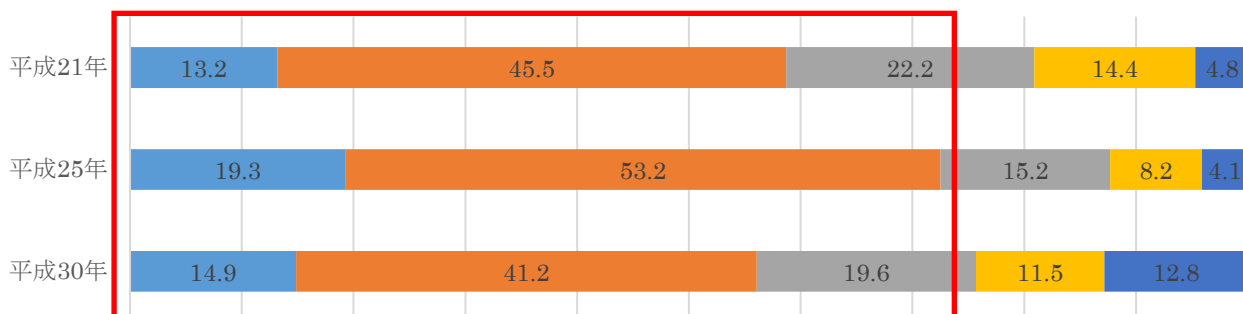
■ 十分足りている ■ ある程度足りている ■ 少し足りない ■ 全く足りない ■ 不明



11 地域防犯活動を行うにあたり必要な資金の現状

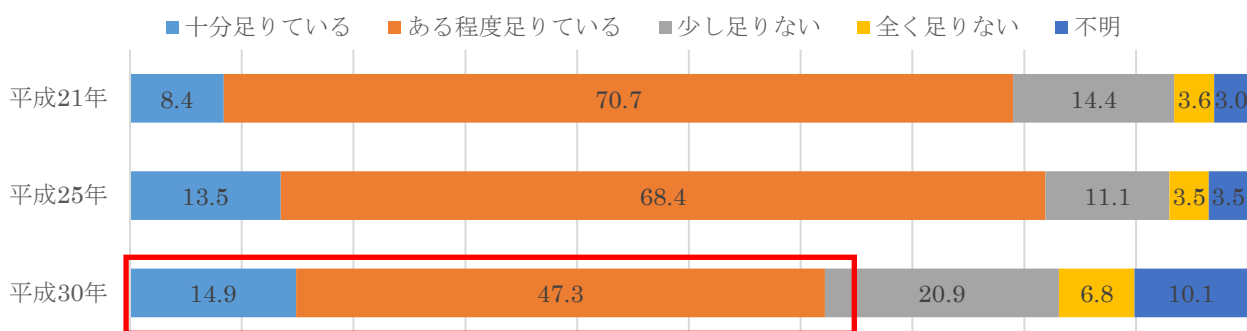
⇒ 「十分足りている」「ある程度足りている」が5割を超える

■ 十分足りている ■ ある程度足りている ■ 少し足りない ■ 全く足りない ■ 不明



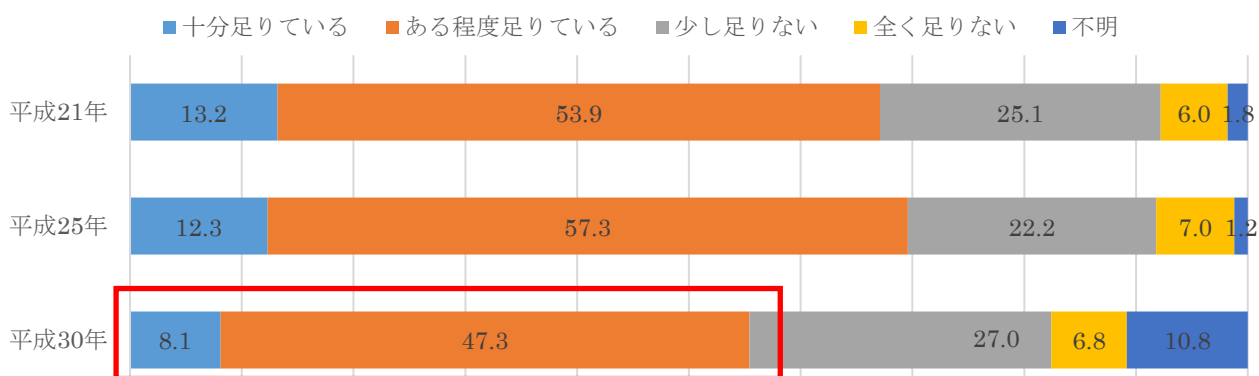
12 地域防犯活動を行うにあたり必要となる犯罪発生状況や活動の手法の情報量

⇒ 「十分足りている」「ある程度足りている」の合計が、H25年度と比較して大きく減少



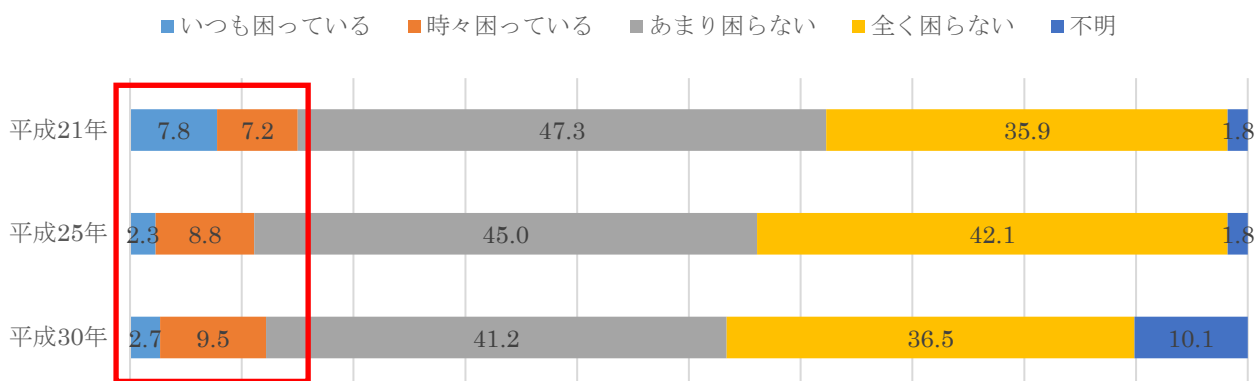
13 地域防犯活動を効果的に継続するにあたり人数の不足度

⇒ 「十分足りている」「ある程度足りている」がH25年度と比較して大きく減少



14 団体メンバー間で会議や意見交換などを行う際の会場確保状況

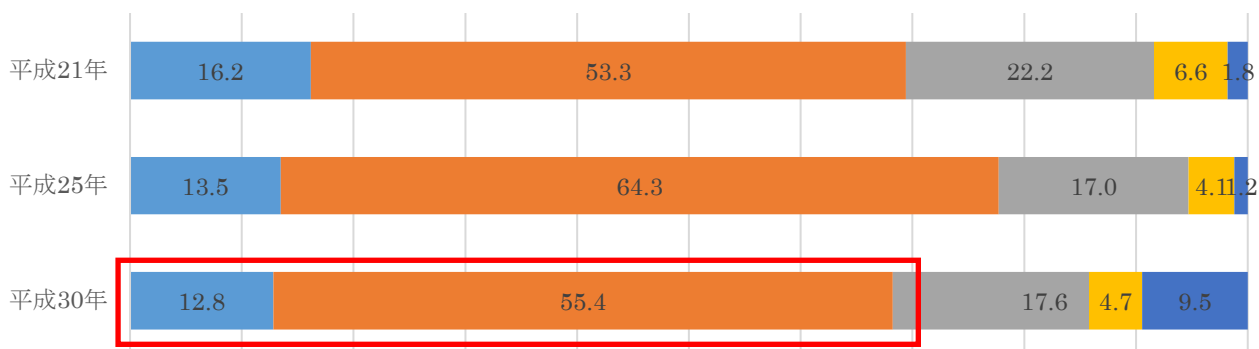
⇒ 「いつも困っている」「時々困っている」がH25と比較して増加



15 他の地域防犯活動や行政などとの連携の度合い

⇒ 「十分行っている」「ある程度行っている」がH25年度と比較して減少

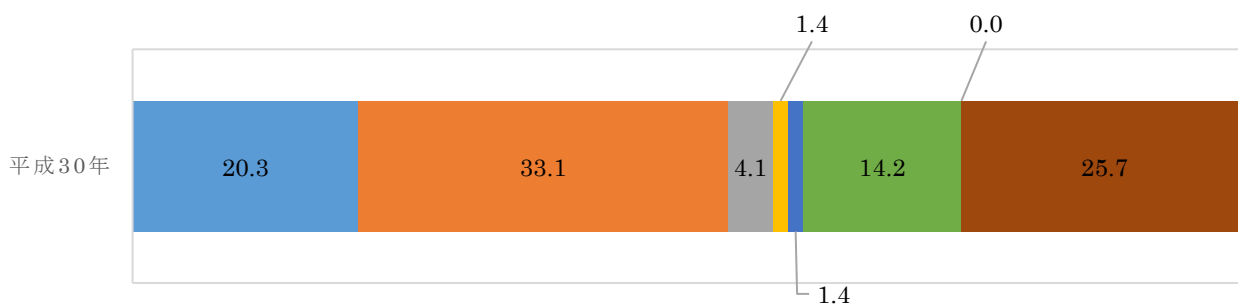
■ 十分行っている ■ ある程度行っている ■ あまり行っていない ■ 全く行っていない ■ 不明



16 自主防犯活動の実施による地域との関係性（H30年度新規調査項目）

⇒ 「知り合いが増えた」、「感謝されるようになった」の合計で5割を超える

■ 知り合いが増えた ■ 感謝されるようになった
 ■ 地域が好きになった ■ 生活に張りができた
 ■ その他 ■ 特に変わらない
 ■ トラブルが起こる等、悪くなった ■ 不明



17 地域防犯を進める上で重要だと思うこと（H30年度新規調査項目）

⇒ 「住民同士のコミュニケーションの促進」が最も多く、次に「通学路などの見守り」となっている

